

令和元年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 事業実施主体 評価一覧

【農泊推進対策(農泊地域高度化促進事業を除く)】 2件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階					評価	評価コメント
				H29	H30	R1	R2	R3		
沖縄	沖縄	伊江村	伊江村観光振興推進協議会		●	● ■			A	教育旅行に取組んだノウハウを活用し、一般観光客向け受入れ体制構築やプログラム開発等の取組を実施し、売上げ、宿泊者数は目標を達成してる。 新規コンテンツ開発、インバウンド対応の語学研修、多言語化など、農泊の実践に積極的に取組んでおり、次年度にも期待できる。
沖縄	沖縄	大宜味村	おおぎみツーリズム地域協議会		●	● ■			A	沖縄の長寿との関連で世界的な関心を集めている中、シークワサーや芭蕉布(伝統工芸)等の地域資源を最大限に活用した取組みやインバウンド受入れに向けた取組みを実施し、売上げ、宿泊者数については目標を達成している。 農泊民家の体制強化に取り組み5軒増加、特産品の商品開発、VRを活用した情報発信をするなど農泊の実践に積極的に取組んでおり、今後の活躍に期待できる。

(注1)「事業実施段階」の凡例：ソフト事業 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード事業 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調

**令和元年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策)
事業実施主体 評価一覧**

【農泊推進対策(農泊地域高度化促進事業)】 3件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階					評価	評価コメント
				H29	H30	R1	R2	R3		
沖縄	沖縄	宮古島市	伊良部島食と暮らし事業協議会			● ■			A	平成29年度から2年間にわたり農泊に取り組んできており、下地島空港から来訪するインバウンド客を取り込むため、多言語化、語学講座、インバウンド対応食事メニューの開発、地域ならではの食文化、風習を活用した体験プログラム開発に取り組み、売上げ目標、宿泊者数目標ともに達成している。 他言語講座に参加したメンバーは、簡単な英語、中国語の受け答えができるレベルまで習得し、今後のインバウンド受入に対する蓄積が形成された。
沖縄	沖縄	宮古島市	ともし・うるか地域協議会			● ■			A	農泊を持続的に実施するために、教育旅行だけではなく大人(一般)の観光客の受入れ拡大の取組として、地元素材を活用した体験プログラムの開発や食に注目した講習会を実施し、売上げはおおむね達成、Wi-Fi環境整備、クレジット決済環境の整備がされた。 琉球大学と連携し、持続的な農泊に資する、「大人の農泊」に係る調査、インバウンド料理開発、安全安心な受入体制づくりができています。
沖縄	沖縄	東村	NPO法人東村観光推進協議会			● ■			A	インバウンド客向けに、村内案内プログラムの開発として村内や体験内容の案内動画(10分)を作成してYouTubeに掲載、トイレの洋式化改修を実施し、売上げ、宿泊者数ともおおむね目標を達成している。 今後は、インバウンド客の来訪は厳しい状況であるが、需要回復に向け付加価値の高いプログラムを継続的に開発していくなど、継続的な取組が期待できる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調

【令和元年度農山漁村振興交付金(農泊推進対策)の評価概要】

○特記事項等

今回は、平成30年度採択の2地区と、令和元年度採択の3地区の合計5地区の評価を行った。
5地区全てが総合評価がA評価であり、重点指導となるC評価の地区はなく、管内の取組としては適切に事業が実施され着実に成果が表れていると言える。

【令和2年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 令和2年9月30日(水)10時00分～12時00分

2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室

3. 出席者

・評価委員会委員 3名 (五十音順)
有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄社長
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦(委員長) 琉球大学農学部准教授

・評価委員会事務局 沖縄総合事務局 2名

4. 議事概要

1) 農山漁村振興交付金の評価について

農泊推進対策(農泊推進事業・人材活用事業)の各実施団体の評価内容(案)について、委員からの意見聴取を行った。

2) 農山漁村振興交付金の評価結果(案)の取りまとめ

上記1)の結果を踏まえ、農泊推進対策(農泊推進事業・人材活用事業)について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

① 伊江村観光振興推進協議会

教育旅行のノウハウを活用し、一般観光客向け受入れ体制構築の取組を行った。インバウンド客向けの語学対応も強化しており、今後役だってくるものと思われ、期待が持てる。

② おおぎみツーリズム地域協議会

沖縄の長寿との関連で世界的な関心を集める大宜味村の地域資源を最大限に活用した取組や、インバウンド受入体制の構築のための取組を積極的に行っており、今後の活躍に期待が持てる。

③ 伊良部島食と暮らし事業協議会

地域ならではの魅力ある食資源を活用した新たな食の体験プログラム開発等に取り組み、増加しているインバウンド客を取り込むため、語学学習得、プログラムの多言語対応等、受入体制を強化したことは非常に評価できる。

④ ともり・うるか地域協議会

持続的な農泊の実施に向けて一般観光客向けに強化した受入体制をベースとして、インバウンドに対応するための環境を整える取組は今後の誘客に大きく影響すると思われ、評価できる。今後に期待したい。

⑤ NPO法人東村観光推進協議会

持続的な農泊を目指し、インバウンド客向けに多言語対応の案内フリップや洋式トイレの整備等を行った。村内や体験内容を紹介するために作成したPR動画も今の時代に合っており、評価できる。